

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長、広報部主任
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、
広報部主任 各学年主任 計11名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者1名、教育関係者2名、地域団体代表2名、同窓会代表、後援会代表、
保護者代表、必要に応じて校長が指名する者 計10名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 オンライン開催 令和 3年 6月19日（土） 内部委員3名、協議委員9名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度学校経営報告・令和3年度学校経営計画 ・ 学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・ 評価委員選出
第2回 対面開催 令和 3年11月20日（土） 内部委員3名、協議委員 8名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外苑祭、創立80周年を祝う会 ・ 池上彰氏による特別授業 ・ 令和4年度以降の入選の課題
第3回 オンライン開催 令和 4年 2月12日（土） 内部委員3名、協議委員 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・ Webアンケート調査結果に係る意見交換 ・ 3年生（74期生）の出願状況 外

(2) 評価委員会

第1回 令和 2年11月20日（土） 内部委員2名、協議委員2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和 3年 2月12日（土） 内部委員2名、協議委員2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

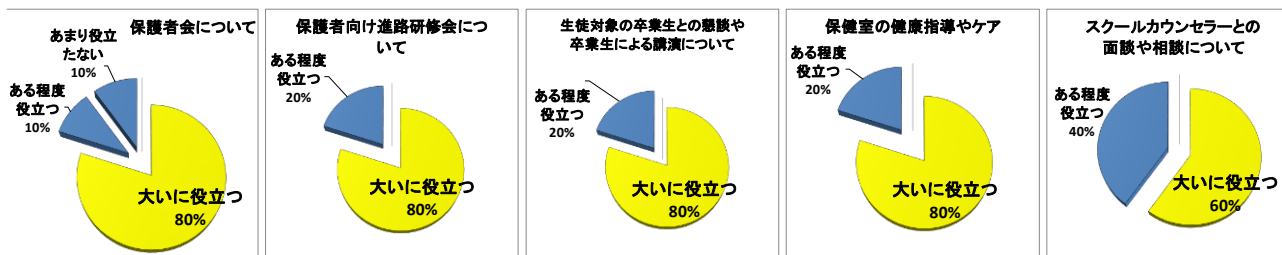
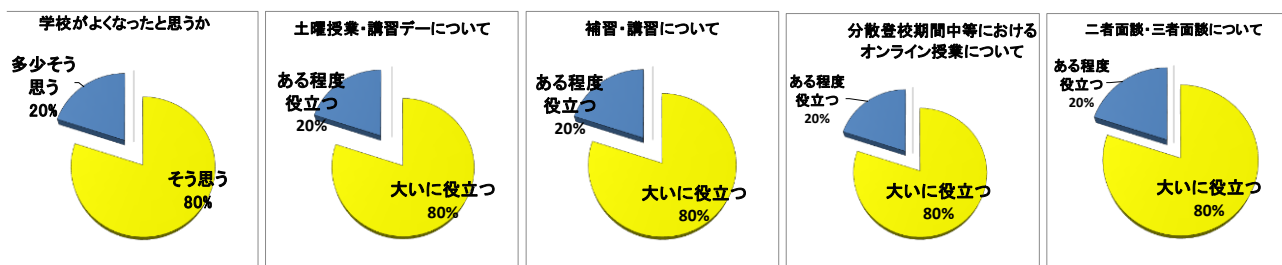
- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動、ライフ・ワーク・バランスの推進

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

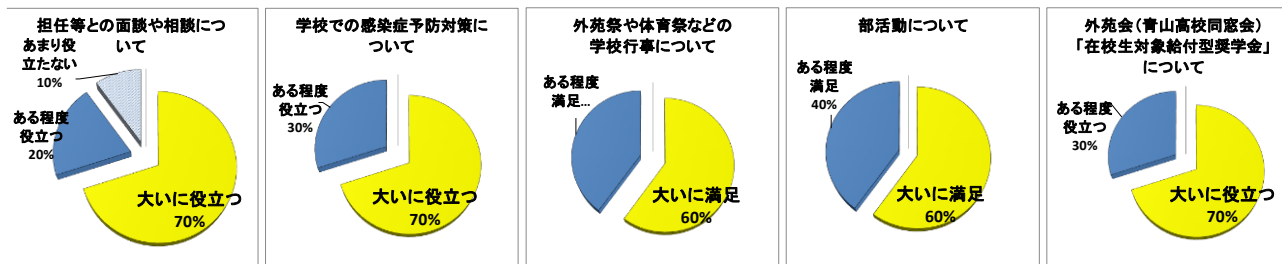
- ・ 実施時期： 令和3年11月下旬から令和4年1月上旬までの間
- ・ 対象・規模： 生徒・保護者 各840人、教職員58人、外部委員10名
- ・ 回答率： 生徒99%（831人）、保護者45%（382人）、
教職員78%（45人）外部委員100%（10名）

(3) 評価結果の概要

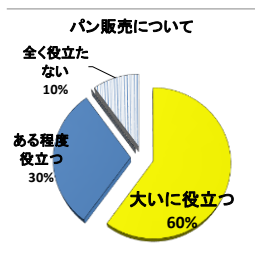
昨年度来、コロナ禍により教育活動が制限され、学校運営連絡協議会もオンライン開催をせざるを得ないなど、教育活動の実態を把握しづらい状況ではあったものの、様々なメディアにより適宜情報発信を行ったことから、概ね大変良好な評価をいただいた。特に、進学実績の向上が教職員や生徒の意識を良い方向へと仕向けているという印象を、多くの協議委員の方にもっていただけた。



全体的傾向を知るにはよいが、進路は生徒によりけりなので長時間にならないことを望む。ただ、資料だけの提供や配布より、耳からの情報は記憶に残る利点もあると思う。



担任の先生の関わり、知識、生徒との信頼関係など個人差が大きいと思われるので、研修やワークショップなどで全体の平均値を上げてほしい。



毎日お弁当持参で、菓子パンを食べない生徒もいると聞いている。

自由記述

難しい時局が続くがコロナ禍での不自由さの中でオンライン活用が飛躍的に進んだ。大学に進学しても、社会に出ても、このスキルは必須のものとなっている。先生方にはご負担も大きいものと思うが、さらなるオンラインの活用と、そこに潜むリスク、その対処方法の習得が目下の課題ではないかと思う。

二次元のオンラインは何かと効率的だが、やはり3次元あるいは時間経過を含めた4次元の人と人の関わりがあつてのことだと思う。生徒同士、生徒と先生、先生同士の生のコミュニケーションが何よりの原動力になると考える。

- (1)在校生一人ひとりが幅広い教養を修得し、自らの希望する進路を実現できるよう、在校生本位の学校運営をより一層推進する。
- (2)学校運営の基本方針を教職員が確実に共有しつつ、目標の実現に向けて教職員の知見も活用した複合的な手法を活用する。
- (3)適時適切な情報の発信を可能な範囲で継続して実施する。
- (4)在校生はもとより、教職員の心身の健康に留意する。

ある事象に対して、対策するにはどのようなことがなぜ必要か、またその途中経過などを早期に発信すること。(青高ではこのご時世の中でも様々な対策や発信が充分に行われていると思う。)

文化講演の講師、内容がとても充実してきており、生徒たちに将来について考えてもらえる、素晴らしい機会を青山高校は提供してくれていると感じる。できるだけ低学年のうちにとたくさん講演を実施して、将来を考え、進路を選ぶ参考にしてもらえたらと思う。

コロナの影響に左右されず、学習や部活動、学校行事など、中止ではなく、形を変えてでも実践する事を願う。生徒達を一番に考え、無観客にするなど、保護者の方はその次で良いと思う。

(4) 協議会における主な意見

・東工大の入試問題の数学は確かに難度が高すぎた。今後改善されるものとする。難関を目指す意味は、優秀な人材の中に身を置くことにある。自分自身の経験からも、志の高い友人に引っ張られて学びを深めていくものだ。

大学でも、オンラインになった、長く続くと精神的にまいってしまう生徒がでてきた、特に1、2年生、長く続くと、体面に勝るものはない、志望の決定は学校説明会ということであったが、学園祭、オープンキャンパスがほとんど、大学でも、ポストコロナの対応、男女比、海外では科学者の男女比は1対1である、日本やアジアは低い、なぜか、能力のある人は性差なく活躍できる。

・国立の受験者数の減少の理由は何か。(経年の増減の範囲内である。)公衆送信に係る著作権使用料は都教育委員会が負担するようになるという聞いた。(実現していない。予算配付もない。)青山中学校のようなハイフレックス型のオンライン授業は実施しているか。(行っていない。)学校評価アンケートに読むに堪えないひどい内容のものがあるが、見方を変えれば、自由に発言できる校風があると言える。職員の健康には十分留意してもらいたい。

学校間連携が行われていること、80周年を祝う会無事終了、3年生に外苑会案内、1月の進路主任の話、難化するが条件はみな同じ、という励ましに感動、感激、感謝、大学受験者の層や質が変わってきた、よりよい教育活動や取り組みを目指すのは素晴らしい、SNSの活用、ハードウェアの活用や発展的学習に期待、情報発信も魅力の一つ、ブランド力、外苑会としても学校と連携協定を結びたい。在校生の心身のケアの重要性、大学でも同様の課題のひとつである。

・アンケートには、コロナ禍の不満が多く書かれている。中でも、講習デーの実施に懐疑的な記述があり、過去からもずっと続いているので、見直すべき時期ではないか。ホームページに掲載される文字が小さくて読みづらい。オンライン授業は、生徒の健康を害し、ストレスによって心身の不調をきたすことがある。感染後は、回復しても、生命保険などの加入に差し障りがあると聞く。イヤフォンが耳によくない。後援会理事会で協議し、生徒のために真に必要な部分を支援する仕組みが変わったことはよいが、であればなおさら、もっと後援会の支援の具体について、生徒に伝えていくべきである。現状では、後援会の実績が伝わっていない。

2期前に理事長、コロナ禍で学校の情報が少ない、探究活動はとてもよい、文化講演は1年生のうちから実施してもらいたい。青高チャンネルの活用による生徒募集について、生徒による学校案内は素晴らしいが、多くの学校に足を向けるのは難しいので、YouTubeはよい。

・学校ホームページにPTAのバナーがあるように、後援会もバナーを設定して、意義や活動について生徒や保護者に伝えていくべきである。

・オンラインの取組は評価できるが、やはり対面がよい。体育館のLED照明など、後援会の支援によって実現した施設設備の改善をもっとアピールしたい。before/afterを比較するなどして紹介するのもよい。卒業式や入学式には、祝電、あるいはメールで祝意を表し、読み上げてもらったり、掲示してもらうことで、活動内容を広く知らしめたい。

アンケートでは、保健室の利用に関するものも多く見られた。学校の状況は詳しいことはなかなかわからないが、コロナ禍を逆手にとって教育活動を発展させていることは素晴らしい、不登校や拒食症の生徒の存在に驚く、どのような状況か知りたい。

・青高の生徒は、コロナ禍にあってもそのようなことを感じさせず、明るく、校内の至る所で勉強したり、先生をつかまえて個人授業のように質問したりしている。感心した。いい学校なのだと感じた。会長として鋭意取り組んでいく。

学校ポータルサイトのPTAによる運用、開始以来徐々にスムーズになった。

・進学実績の素晴らしい青山高校が、本校と交流する理由はどこにあるかと考えるとき、校長の共生社会に対する深い考えがあるのだろうと思う。共生社会の実現に向けて今後も青山高校との交流を続けていきたい。実は、介護実習のために青山学院大学と連携して学生を受け入れている。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。

・体験授業、1年生の、ここ2年間、コロナ禍でありながら青高に受け入れてもらい貴重な体験、感謝、青高の学校評価は参考になる、教職員にもこの内容を紹介している、探究活動にも興味あり、総合学習で取り組みたい、高校の取り組みを参考にしたい。

・現在、デジタル庁の立ち上げにも会社として参加しているが、学校におけるデジタル化も大変重要であると認識している。ICT等の活用におけるイヤフォンの弊害については、骨伝導型のものにすれば、PC等の音以外の音にも耳が反応できるし、耳への負担も少ないと思う。毎年、1年生には地域社会奉仕でご協力いただき感謝している。コロナ後には再び連携して取り組んでいきたい。

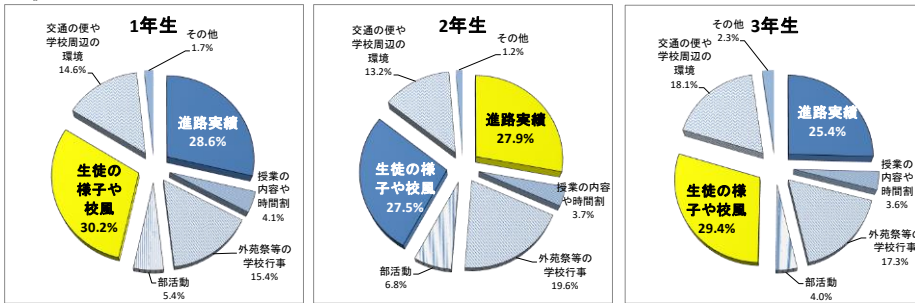
教職員、PTA、困難な状況に柔軟に対応していることに感動した、もっともっとお役に立ちたいと考えている。地域連携、もっともっと協力したい。

(5) 学校評価の結果分析・考察

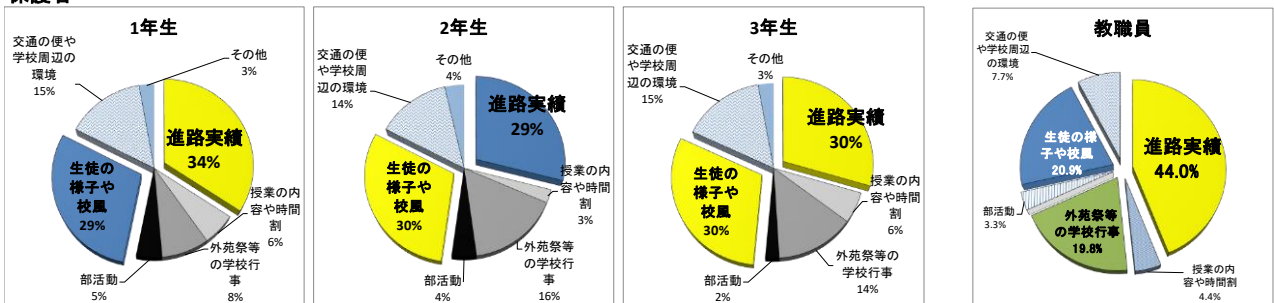
ア. 青山高校を志望する際に考慮した事柄は「生徒の様子や校風」「進路実績」が上位。

生徒・保護者の認識は概ね一致しているが、教職員の認識には依然として若干のずれがある。

生徒



保護者



イ. 授業について

概ね肯定的だが、科目によっては厳しい意見も見られた。また、オンライン授業の実施状況には、科目担当者によって大きな隔たりがあり、教員の自己申告とは大きく異なる結果が見られる科目が散見される。一人1台端末の先行導入を行ったが、1年目の今年度は大きな課題が残ることになった。しかしながら、令和4年度から全校で導入されることを考えれば、令和2年度に基本方針を設定し1年先行して導入したことにより、各教科・今年度1学年での意欲的な取組に結び付き、多くの知見を積むことができたことは大きな収穫であった。

ウ. 学習のしおり（年間指導計画）について

学習到達目標を設定するようになって、生徒が有用度を感じる割合は飛躍的に高まった。

エ. 外部模試・校内学力テスト

進路指導全般、肯定的評価が大半であるが、中でも模擬試験と校内学力テストに関する評価が高かった。特に、学力テストは、「作問力は指導力」のスローガンの下、記述問や新傾向の問題等を出題するようになったことが評価向上につながったものと考えられる。

オ. 部活動・学校行事

コロナ禍により活動が大きく制限されたにもかかわらず、高い満足度を示す結果になった。

カ. 学校ポータルサイトの試行

コロナ禍における教育活動の変更や新型コロナウイルス感染症に関する情報提供、PTA関連のお知らせなど、その迅速さと手軽さに対して概ね高い評価を受けた。

キ. 学校における感染症対策

概ね良好な結果であったが、大半は「ある程度満足」であり、保護者として学校に配慮した回答になったものと思われる。

ク. 自由記述

(ア) 保護者

コロナ禍における教育活動の制限についての意見が大半であった。回答者のほぼ全員が自由記述を入力しており、その関心の高さが窺える。

意見は、大きく三つのカテゴリーに分類できる。

- ①制約がある中で学校、教職員はよく取り組んでいると評価する意見
- ②コロナ対策が過剰であり、私学との格差により生徒が不利益を被っているという意見
- ③コロナ対策が不十分であり、生徒への指導を強めるべきであるという意見

①、②の立場においては、対面授業の実施及び学校行事、部活動の制限緩和を求める意見が多く、③の立場においては、オンライン授業や希望者に対してハイブリッド型の授業実施を求める意見が多く見られた。この件について、学校に対する意見表明が全くない中、都民の声にはコンスタントに校長を指導するようという投書が上げられており、学校に対する信頼が薄れていることが窺える。

その他、学校ポータルサイトの試行運用は、システムに関する意見以外、運用そのものを否定する意見はごくごくわずかであった。次年度に向けて改善するとともに、一層の活用を図っていく。

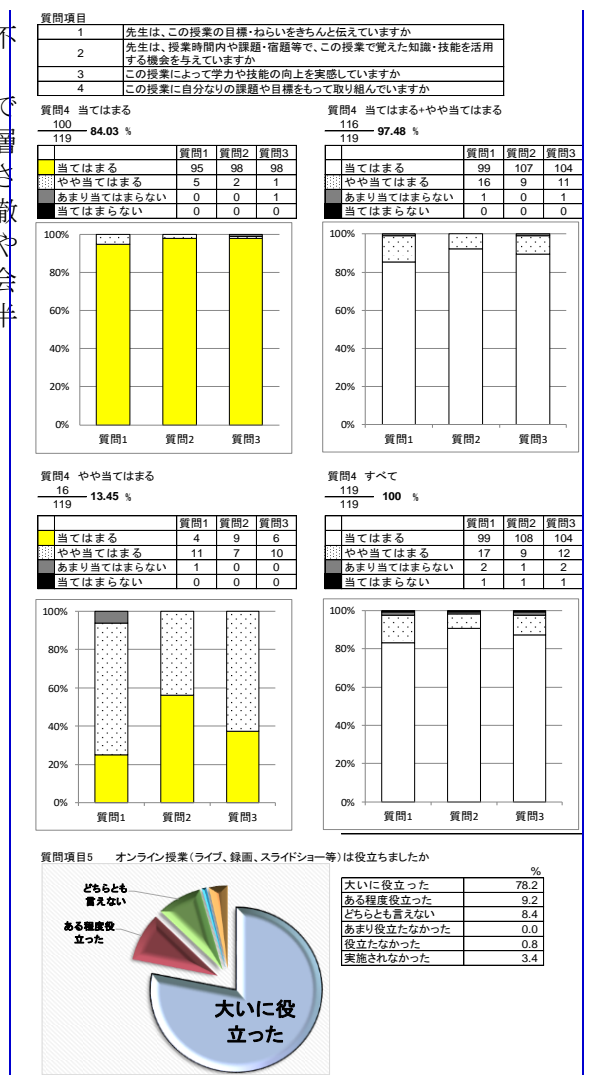
(イ) 生徒

コロナ禍におけるオンライン授業による心身の不調、部活動・学校行事の制限によるストレスなど、生徒が大いに苦しんでいる様子が見て取れる結果であった。わずかながら、オンライン授業をより一層求める意見や、学校における感染症対策の不十分さに不安を感じている意見があり、教職員への周知徹底を図った。特に、CO2測定器の不適切な運用や昼食時等におけるマスク非着用時での生徒同士の会話に対する意見が顕著であった。生徒の意見の大半は、保護者の意見の②に代表されるものであった。

(6) 生徒による授業評価

生徒による授業評価結果は、科目ごとに学校ホームページに公開するとともに、教員個票を、時間講師を含め全教員に配布して、評価に値する点、改善すべき点を具体的に指導した。オンライン授業だけでなく、令和2年度に校長決定により定めた「青山高校における教育活動のICT化推進の基本方針」に基づいて、対面授業における活用方法の研究を教科・個人で行うよう指導するための基礎資料として活用した。

右図は、最も指導力の高い教員が受け持つ3年生の理科の科目の評価結果である。他の教員の模範となる見事な内容であった。教員が作問力を競い合う土壌がようやく醸成され、定着しつつある現在、こうしたエビデンスに基づく教員への指導はもっとも効果的な方法の一つだと言える。



4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

エビデンスに基づいた改革は着実に成果を挙げている。調査結果の全教職員での共有を出発点とし、引き続き課題の具体的な改善に向けて取り組んでいく。また、自由記述に見られる不満や要望、提案についても、優先順位を付けつつも、対応策を令和4年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

ア. 感染症の流行下での教育活動の工夫

イ. 生徒の心身の悩みの解決に資するよう、教育相談等の一層の充実

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) トイレ洋式化は完了。悪臭対策、照明 LED 化と自動水栓化等の教育環境の整備を一層推進する。
- (2) 大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成、課題のある授業者への指導を計画的に実施していく。
- (3) スクールカウンセラーや特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、いじめ対策委員会や特別支援委員会を定期的を開催するとともに、企画調整会議や学年会等において生徒情報を詳細に共有するなどして、いじめの未然防止や生徒の心身の健康の増進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 10名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
8	2	0	0	0	0	0

【参考】令和2年度

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	3	2	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議0回、企画調整会議0回

【成果】コロナ禍により実績がなかった。

以上